

2017年5月1日

## 2017年 新緑の季節に想う

九州工業大学学長 尾家祐二

新入生を迎え、新たな1年が始まりました。学部入学生および大学院前期・後期課程入学生合わせて1674名の学生が入学しました。大変嬉しいことです。その中には、12ヶ国から来日してくれた51名の留学生も含まれています。遠い国々から来てくれた人達を歓迎する意味で、彼らの国の旗を描いた下記のパネルを作成して、入学式会場に掲示しました。

新年度に入り早速、マレーシアのプトラ大学、フランスのサンテティエンヌ国立高等鉱業学校の学長はじめ執行部の皆様に訪問して頂き、今後の更なる連携強化について協議することができました。さらに、新たにポーランドのアダム・ミツケヴィチ大学の先生に訪問して頂きました。ポーランドの有名な詩人の名前を冠した大学です。今年から新たにそうした大学と **Erasmus+**プログラムを開始することになりました。本学をパートナーとして選んで頂き、学生、教職員が交流する機会を得ることができたことに感謝しています。本学にとっては、フランスのロレーヌ大学との **Erasmus+**プログラムに次いで2件目になります。

このように様々な国の方々とお会いすることは、交流の意義を改めて感じ、考える機会となります。国家レベルの関係では多様な要因が複雑に作用し合いますが、本学の、教育研究に関わる特色ある大学間交流の多くは、一人の本学教員と相手の大学の教員との長い研究交流をきっかけとしています。そして、そのきっかけを通して個人間の信頼が醸成され、他の教員の新たな参加や事務職員間の協議により、組織的な信頼関係に発展してきています。

ポーランドの大学とは、これから組織的交流を充実させていきたいと考えています。ポーランドについては、最近読んだ「また、桜の国で」(須賀しのぶ著、祥伝社刊)を通して、これまでの日本とポーランドの交流を知ることができました。その小説は、第二次世界大戦直前から話を始め、緊張した世界情勢の中においてポーランドの日本大使館に勤務する外務書記生を主人公とした話です。

外務省のホームページ(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol22/>)にもあるように、ポーランドは「平原の国」という意味で、かつ「1795年にポーランドは消滅。第一次世界大戦が終了する1918年に独立するまでの123年間、ポーランドは世界地図から姿を消す」という過酷な歴史を乗り越え、コペルニクス、ショパン、マリー・キュリー(キュリー夫人)等を生んだ国です。そして、2019年には日本・ポーランド国交樹立100周年を迎えることとなります。今回の交流が、改めてこのようなことを知ろうとする機会とな

りました。

上記の小説の中で、「外交の基本は、信頼である。国と国といえども人と人であり、人間関係の信頼によって成り立つのと同じだ。だから、我々は、常に信頼に足る人物でなければならぬ」と述べられており、様々な場面での大事な指針になりえます。新たな生命の息吹を感じるこの季節に、躍動的な活動を通して、互いを知り、成長していきたいという意志を持続させ、国内外において、様々な交流活動を継続していきたいと改めて思っております。引き続き、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



## 入学生歓迎パネル

(参考)

**Erasmus+ (エラスムス・プラス) :**

エラスムス・プラスは EU が運営する教育助成プログラムで、EU 域内の大学が域外の大学をパートナー校として共同申請することになっています。本学は、その中のひとつである短期留学プログラム（3カ月～12カ月）に採択されました。このプログラムに参加する相互の学生及び教職員に対して、渡航費と滞在費が助成されます。現在、新たに3件申請しており、今後も申請・採択を増やしていきたいと考えています。

参照：駐日欧州連合代表部

URL <http://www.euin-japan.jp/relations/academic-erasmus/#2>